

株式会社 ルネスアソシエイト

ICT/IoT活用による入居者の見守りと業務効率化による個別介護サービス強化

福知山市では初めてとなる「EGAO linkシステム」を活用し入居者の見守りを行う。これはベッドのセンサーとナースコール、スマートフォン、介護記録を連携するもので、夜間巡回、介護記録の業務効率化と介護度が高い人の受け入れ、個別サービスの充実を両立させる。

■ 代表者	坂入 美保	■ 所在地	〒620-0041 京都府福知山市字天田107-1
■ 設立	1978年10月1日	■ TEL/FAX	TEL. 0773-22-1477 / FAX. 0773-24-4175
■ 資本金	5,000千円	■ URL	http://maisonparterre.com
■ 従業員数	65人	■ E-mail	h-ohta@maisonparterre.com
■ 業種	社会保険・社会福祉・介護事業	■ 得意分野	高齢者介護

企業概要

1978年に福知山市で調剤薬局として創業。1990年に処方箋薬局として法人化。その後、介護付き有料老人ホーム「メゾンパルテール福知山」を開所し、介護事業に参入。現在は介護事業、病院清掃請負事業、病院併設カフェ&レストラン事業の3事業部門を持つ。



老人ホーム建物

主な保有設備

メゾンパルテール福知山の施設



居室

多目的スペース



談話コーナー

屋上ガーデンテラス

補助事業の目的、取組のきっかけ

◆ 当社の概要と強み

当社は京都ルネス病院の門前調剤薬局として創業し、その後、介護付き有料老人ホーム「メゾンパルテール福知山」を開所して介護事業に参入し、現在に至っています。当社は、「老後は死に行くためのものではなく、人生の最後を生き抜くための時」と考え、入居者がここに来て楽しかったと思えるような質の高い介護サービスを提供することを大切にしています。

当社の強みは、施設から徒歩5分の近隣にある京都ルネス病院と連携して、定期的な訪問診療や急病時の24時間受け入れ態勢を整えていることです。また、福知山市街地にあるため、入居者は外出して食事やショッピング等を楽しむことができます。



京都ルネス病院(協力医療機関)

◆ 当社の経営的課題

当社の経営的課題は収益性の改善です。収益性が低い理由は、当施設は1階～4階で69名が入居できる部屋数を有していますが、取組み前は2～4階のみしか稼働できておらず、入居者は最大59名でした。現在のサービスを維持して1階をオープンするには、夜勤体制を2名から3名に増員する必要があります。しかし、昨今の人手不足や人件費負担の問題から、夜勤3名体制の実現は難しい状態です。そのため、新規の申し込みがあっても入居を断らざるを得ない状況でした。そこで今回の取組みで生産性を向上させ、人件費の負担を抑えながら夜勤2名体制で1階をオープンし、施設稼働率を上げることを目標としました。

補助事業の取組内容

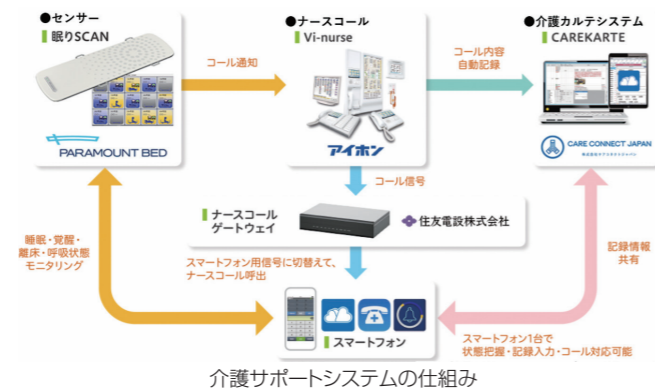
◆ 技術的課題と解決策

生産性向上のための技術的課題として、①記録作業の負担軽減、②夜勤の負担軽減、③正確な入眠/起床時間の把握があります。当社ではこうした課題を解決するため、介護記録に新た

なシステム(センサーとナースコール等)を連携させた「EGAO linkシステム」を北近畿で初めて導入し、職員の負担軽減と介護サービスの差別化を図ることにしました。この介護サポートシステムは、ベッドマットに内蔵のセンサーによって睡眠、覚醒、起き上がり等のモニタリングをし、状態の変化をナースコールとスマートフォンに通知します。通知等の記録は介護カルテシステムに自動で記録・蓄積されます。

◆ 本事業の実施ステップ

本事業は以下のようなステップで進めました。①導入システムの選定と発注、②現行業務プロセスの棚卸、③新業務プロセスの整理、④導入システムの納入・据付、⑤操作マニュアルの整備・教育、⑥試験運用・実証。



◆ 技術的な成果

本システムの導入で、以下のような成果を得ました。

①記録の自動化による記録作業の負担軽減

従来は介護記録の記載と転記にかかる業務負担が高かったが、睡眠状態やナースコールが自動で記録されるため大幅に業務負担が軽減しました。また、スマートフォンから入力したデータも記録できるため、勤務交代時のコミュニケーションの負担も大幅に低減しました。

一人当たりの平均記録作業時間

従来の記録作業時間 (2019年12月2日～12月6日)		導入後の記録作業時間 (2019年12月9日～12月13日)	
日勤帯	夜勤帯	日勤帯	夜勤帯
60分	90分	50分 (10分減)	75分 (15分減)

氏名	開始	終了	タイトル	食事 主 副	水分	排泄 尿 便	バイタル 体温 血圧 脈拍	入浴
[211]	14:00	未定	要介護					
	00:00		巡回					【様子】監視実施
	01:48		コール					【場所】211.【ベッド】1001.【呼出種別】ナースコール
	03:00		巡回					【様子】監視実施
	05:02		コール					【場所】211.【ベッド】1001.【呼出種別】ナースコール
	06:42		巡回					【場所】211.【ベッド】1001.【呼出種別】ナースコール
	08:00		食事	10 8	200			【与薬】実施
	09:00		バイタル				36.3 120/83 60	
	10:33		水分補給		150			【飲料】ポカリ / アクエリアス
	12:00		食事	10 8	150			
	12:12		水分補給		50			【飲料】水
	12:13		看護					【区分】実施.【方法】看護.【看護】多く介助する
	13:09		看護					【様子】居室清掃
	14:02		水分補給		150			【飲料】レモンティー
	14:48		水分補給					【様子】居室で過ごしている
合計				20 16	700 0 0			

ナースコールの自動記録例

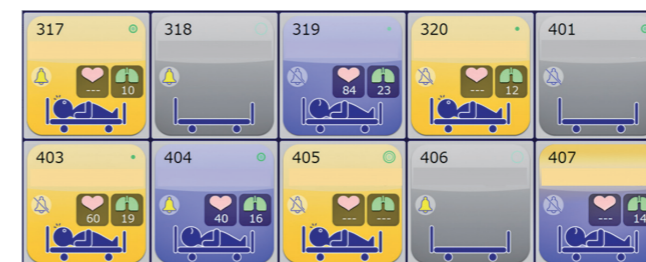
②覚醒のナースコールによる夜勤の負担軽減

従来は定時巡回での排泄ケアでしたが、各居室の状況がモニタリング画面で一覧できるため、睡眠→覚醒→起き上がりのタイミングをとらえての訪室が可能となり、従来決まった時間に定期巡回していたものを個々の入居者ごとに覚醒時の個別アプローチに移行し、従業員・入居者それぞれの負担軽減に繋がりました。

夜勤1回あたりの平均居室巡回数

従来の夜間巡回 (2019年10月12日～10月19日)	導入後の夜間巡回 (2019年12月1日～12月8日)
480室	154室 (68%減)

※夜勤は19時30分から翌7時15分



各居室のモニタリング例

③入居者それぞれの睡眠パターンを可視化

介護サポートシステムの導入で収集蓄積したデータを有効活用することで個人個人の睡眠周期に応じたケアプランの立案が可能となり、自立支援の目標設定に対する達成状況を都度確認することができるようになりました。具体的なケアプランとしては、昼夜逆転している入居者は昼寝を短縮するとかです。

補助事業の成果と今後の展開

◆ 補助事業の成果

①職員の負担軽減成果

介護現場の情報IT化を推進したことで、記録・報告書作成負担軽減や職員間の情報共有・コミュニケーション向上が実現され、職員の業務意識が向上しました。

②経営面での成果

業務の効率化で職員の負担が軽減された結果、介護サービスの質を維持しながら1階の介護フロアをオープンすることができ、入居者を最大で69名まで増やすことが出来ました。また、介護度の高い入居者比率が増えても、サービスレベルを維持しながら運営できる体制の目処が立ちました。

◆ 今後の展開

①転倒事故の減少

覚醒、起き上がり、起床、離床の動作をスマートフォンで把握し、ナースコールする機能によって、タイミングよく訪室し介助することが可能となり、特に夜間の居室内での転倒事故防止や転倒時の早期発見・早期対応が可能となっています。

②民間にしかできないサービスの提供

介護サポートシステムの導入で大幅に短縮した労働時間を活用し、民間にしかできない自由度が高い介護・生活支援サービスを提供していく予定です。具体的には、個別のケアプラン作成だけでなく、ショッピングがしたいなどの一人ひとりの生きがいや趣味、希望を支援していく予定です。